

# 2025年度 決算説明資料



2026年5月14日

株式会社三井E&S



■ 2025年度 決算説明	頁	■ 参考資料	頁
➤ 概要	3	➤ 設備投資・研究開発費・従業員数	18
➤ 2025年度 決算概要	4	➤ コンテナクレーンのシェア	19
➤ 2025年度 営業利益 期初予想と実績の比較	5	➤ 船用エンジンの状況	20
➤ 2025年度 連結貸借対照表の概要	6	➤ ヒストリカルデータ	21-22
➤ 2025年度 連結キャッシュ・フローの概要	7		
➤ 2025年度 セグメント別決算概要	8-11		
■ 2026年度 見通し			
➤ 2026年度 連結業績通期見通し	12		
➤ 2026年度 セグメント別業績通期見通し	13		
■ トピックス			
➤ 成長戦略（グリーン&デジタル戦略）	14		
➤ ドローンスナップソリューション	15		
➤ 二元燃料エンジンへの対応状況	16		
➤ 環境対応型・遠隔操作対応ヤード用クレーン受注	17		



(単位：億円)

	2024年度	2025年度	増減
受注高	4,217	<b>3,158</b>	△1,059
売上高	3,151	<b>3,532</b>	+381
営業利益	231	<b>376</b>	+145
営業利益率	7.3%	<b>10.7%</b>	-
経常利益	278	<b>449</b>	+171
経常利益率	8.8%	<b>12.7%</b>	-
親会社株主に帰属 する当期純利益	391	<b>385</b>	△6

<期中平均為替レート>

	2024年度	2025年度
USドル	153.39円	<b>158.21円</b>

## ■ 受注高

受注環境は良好だが、船用推進システム部門における前年度の大型船用エンジンの複数基一括受注の反動などにより、前年度に比べると減少

## ■ 売上高

前年度の好調な受注によって積み上げた豊富な手持ち工事が、着実に進捗したことなどにより、前年度に比べて増収となった。

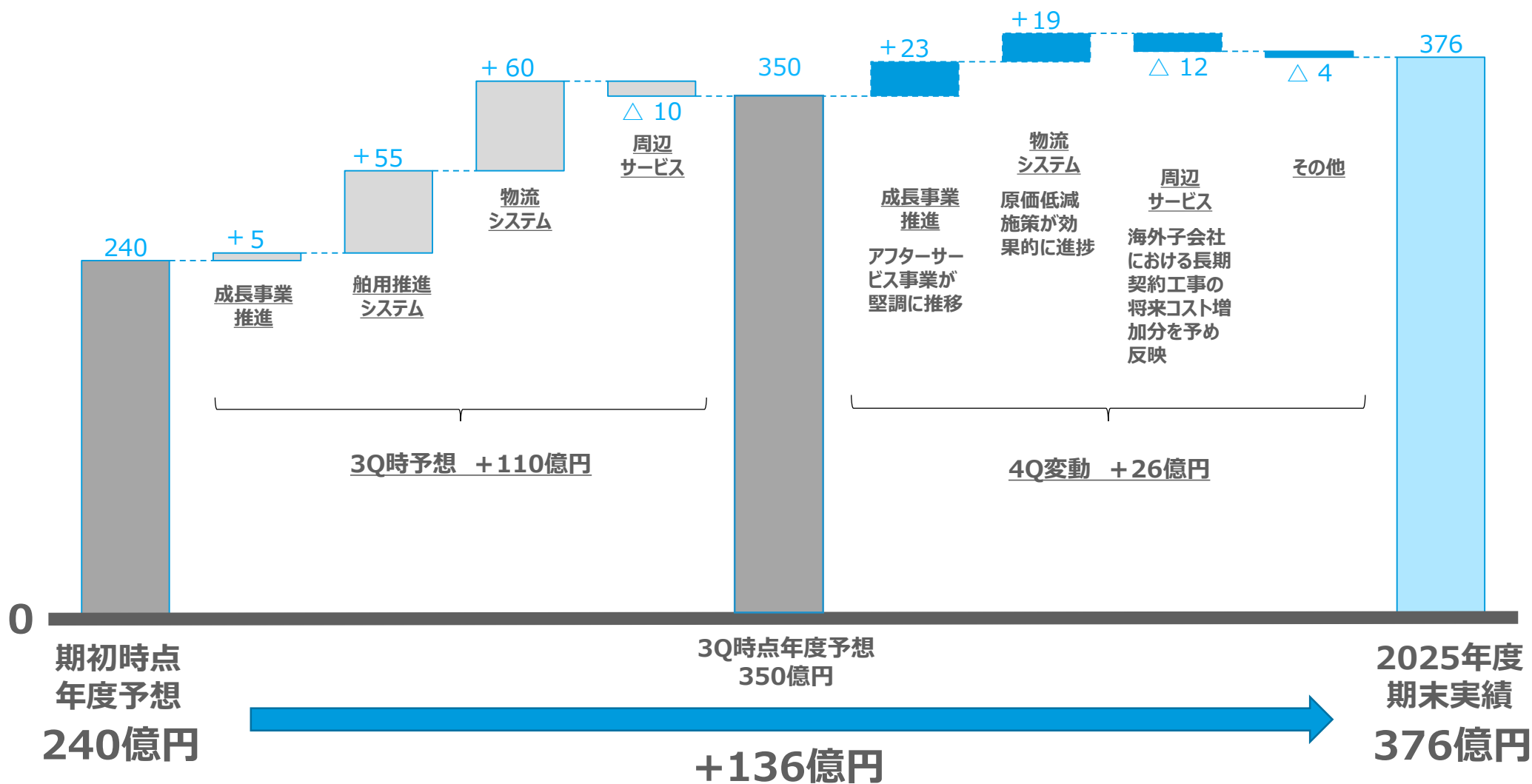
## ■ 営業利益

各事業における売上高増加及び原価低減施策の推進によって、前年度に比べて増益となった。特に船用推進システム部門、物流システム部門において、大幅な増益  
営業利益率は過去最高を更新

# 2025年度 営業利益 期初予想と実績の比較

※ 主要 3 事業部門の牽引により、期初予想に比べ大幅な増益となる

(単位：億円)



# 2025年度 連結貸借対照表の概要

※ 着実な利益の積み上げにより、株主資本及び自己資本比率が向上

(単位：億円)

	2024年度	2025年度	増減	
<b>資産合計</b>	<b>4,492</b>	<b>4,946</b>	<b>+453</b>	
(現金及び預金)	354	571	+217	主に売掛金回収及び固定資産売却収入による増加
(受取手形、売掛金及び契約資産等)	1,079	953	△127	主にコンテナクレーンの売掛金回収による減少
(棚卸資産)	699	779	+79	主に船用エンジンの手持ち工事増加による仕掛品の増加
(有形・無形固定資産)	1,303	1,220	△82	
(投資有価証券)	297	550	+253	株価上昇に伴う増加
<b>負債合計</b>	<b>2,751</b>	<b>2,607</b>	<b>△143</b>	
(支払手形及び買掛金等)	591	515	△76	主に取適法対応による減少
(契約負債)	442	429	△13	
(有利子負債)	978	927	△51	長期借入金の返済による減少
うち短期借入金	540	553	+13	
うち長期借入金	438	374	△64	
<b>純資産合計</b>	<b>1,742</b>	<b>2,338</b>	<b>+597</b>	
(株主資本)	1,115	1,501	+386	当期純利益による増加
(自己資本)	1,698	2,291	+593	
(自己資本比率)	37.8%	46.3%	-	
<b>運転資本(*)</b>	<b>701</b>	<b>712</b>	<b>+11</b>	
D/Eレシオ	0.6倍	0.4倍	-	

(\*) 運転資本 = 売上債権 (除く前受金) + 棚卸資産 - 仕入債務

# 2025年度 連結キャッシュ・フローの概要

※ 着実な利益改善を背景に、営業キャッシュ・フローが増加

(単位：億円)

	2024年度	2025年度	増減	
営業CF	149	<b>284</b>	+136	主要事業が堅調に推移した事により増加
投資CF	609	<b>26</b>	△583	24年度の609億円は、主に関係会社株式の売却による収入
フリーCF	758	<b>310</b>	△448	
財務CF	△766	△ <b>104</b>	+661	24年度は、主に上記株式売却収入を原資として短期借入金を大幅に圧縮

# 2025年度 セグメント別決算概要

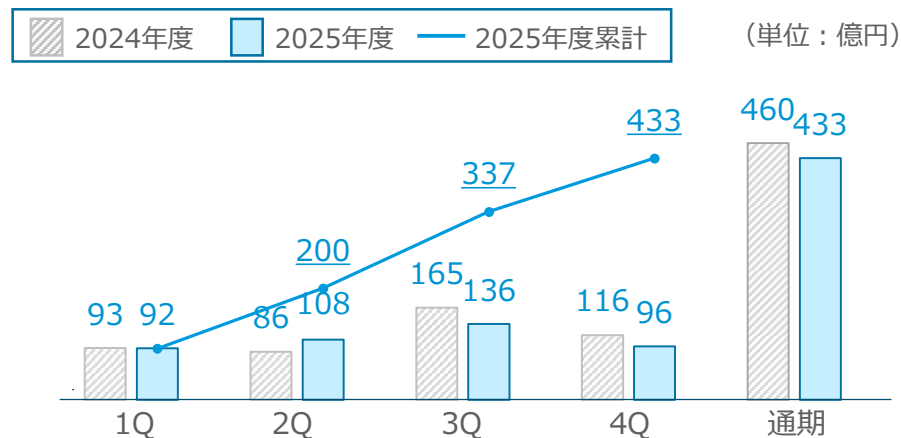
- ※ ・主要な4部門において売上高及び営業利益が増加
- ・特に中核事業における採算性が大幅に改善

(単位：億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	2024年度	2025年度	増減	2024年度	2025年度	増減	2024年度	2025年度	増減
成長事業推進	460	<b>433</b>	△27	400	<b>438</b>	+37	68	<b>88</b>	+19
船用推進システム	2,129	<b>1,311</b>	△819	1,355	<b>1,497</b>	+142	75	<b>145</b>	+70
物流システム	761	<b>666</b>	△96	628	<b>652</b>	+24	60	<b>139</b>	+80
周辺サービス	866	<b>748</b>	△118	752	<b>943</b>	+191	△16	<b>8</b>	+24
その他	1	<b>1</b>	0	16	<b>2</b>	△14	45	△4	△49
合計	4,217	<b>3,158</b>	△1,059	3,151	<b>3,532</b>	+381	231	<b>376</b>	+145

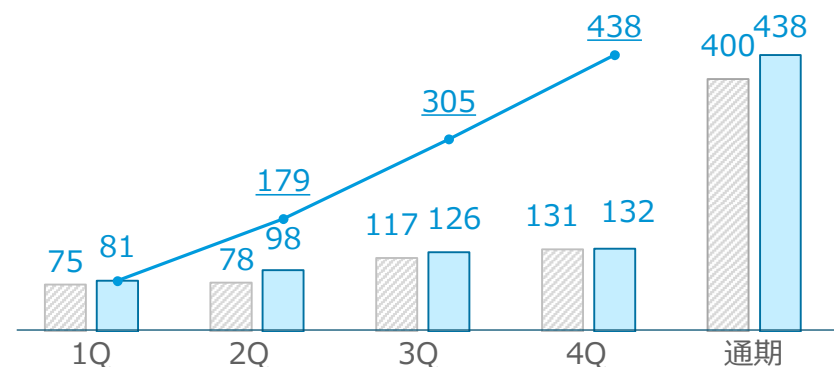
## ■ 受注高：前年度比 $\Delta$ 27億円

水素市場の立ち上り遅れにより、水素圧縮機の新規受注には至らなかったが、国内製鉄所向け高炉用送風機は、昨年度に引き続き大型案件2件を連続受注しており、前年度水準並みの受注を確保



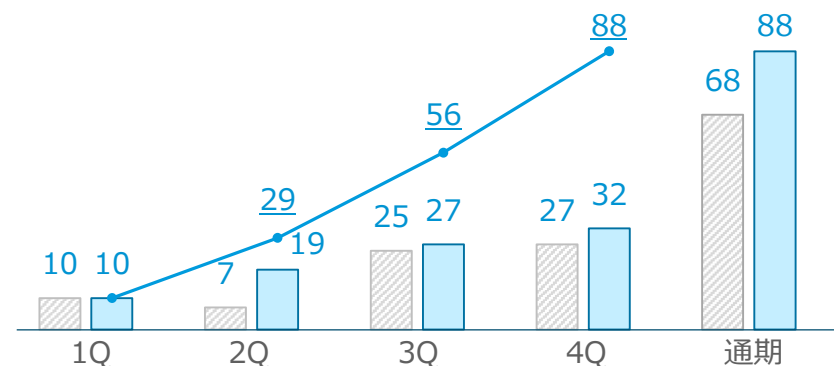
## ■ 売上高：前年度比 +37億円

国内初となる洋上水素ステーション向け水素圧縮機の納入や、高炉用送風機などの手持ち工事が着実に進捗したこと、アフターサービス事業が堅調に推移したことなどにより、前年度に比べて増収



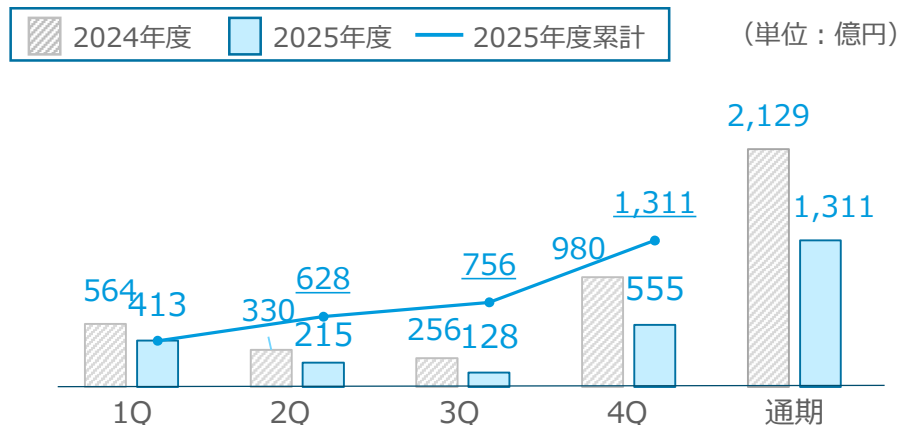
## ■ 営業利益：前年度比 +19億円

売上高増加に加えて、アフターサービス事業が好調に推移したことなどにより、前年度に比べて増益となった。



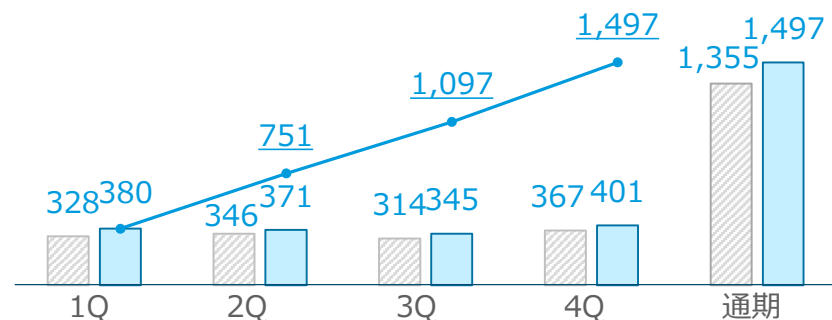
## ■ 受注高：前年度比 $\triangle$ 819億円

前年同期に大型船用エンジンの複数基一括受注があったことから、前年度に比べ減少したが、二元燃料エンジンを含め、船用エンジンの需要は引き続き旺盛であり、計画(1,200億円)を上回る受注を積み上げた。



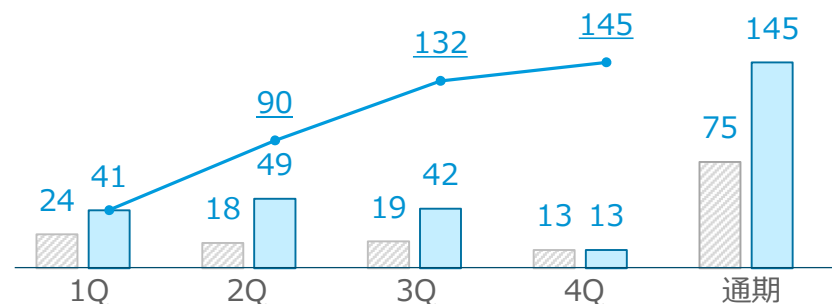
## ■ 売上高：前年度比 +142億円

豊富な手持ち工事を着実に納入するとともに、国際的な環境規制の強化を背景として、二元燃料エンジンが増加傾向にあることなどにより、前年度に比べて増収となった。



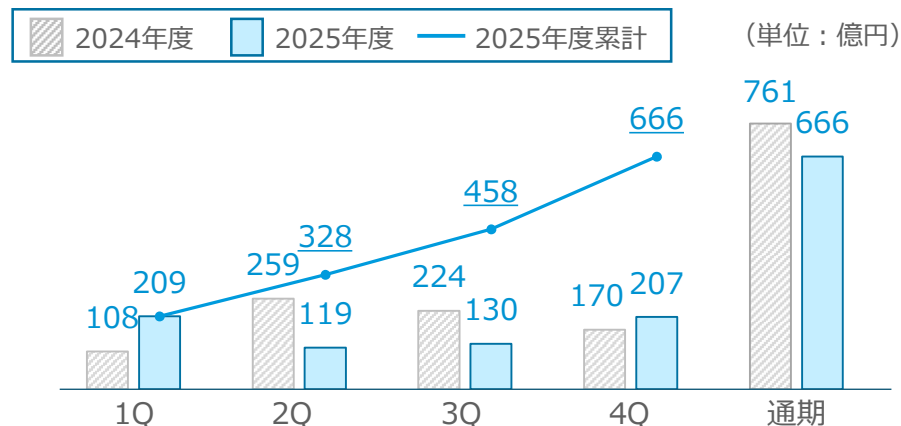
## ■ 営業利益：前年度比 +70億円

売上高の増加に加えて、原価低減を実施したことや、ドック工事増加などにより、アフターサービス事業が好調に推移したことから、前年度に比べて大幅な増益となった。



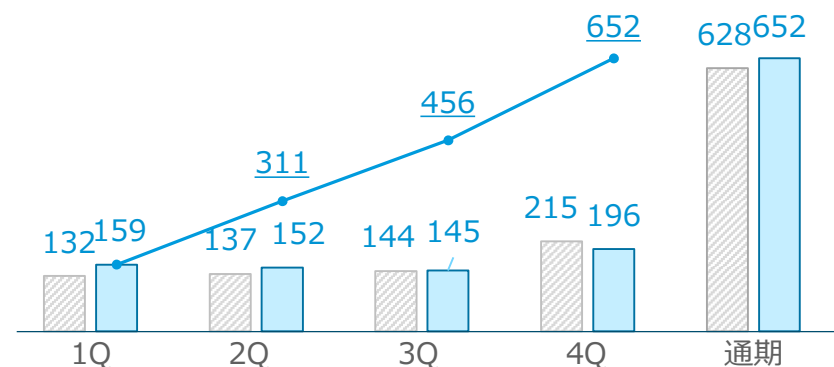
## ■ 受注高：前年度比 $\Delta$ 96億円

国内で、前年度に比べ大型案件が少なかった影響で減少したものの、引き続きベトナムを含めた東南アジア向け大型案件や米国向け案件などを着実に積み上げ、計画(600億円)を上回る受注を達成



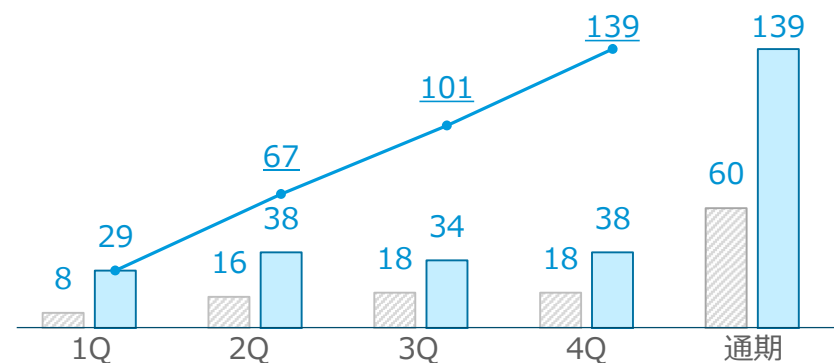
## ■ 売上高：前年度比 +24億円

豊富な手持ち工事を抱える中、海外向け大型案件が順調に進捗したことなどから、前年度と比べて増収となった。また、ベトナムでの生産が売上面で効果を出し始めている。



## ■ 営業利益：前年度比 +80億円

高操業を背景とした売上高の増加や、大分工場における生産効率向上及び原価低減によって海外向け大型案件の採算が向上したことなどから、前年度に比べて大幅な増益となった。



# 2026年度 連結業績通期見通し

- ※ ・受注高及び売上高は、概ね良好な事業環境を背景に増加  
 ・営業利益は、投資フェーズに伴う固定費増加等によって、前年度より減少するものの、高水準を維持  
 ・フリーキャッシュ・フローは、成長投資の本格化に加え、運転資本増加要因が2026年度に集中する見通しのため、前年度から減少

(単位：億円)

	2025年度 実績	2026年度 見通し	増減
受注高	3,158	<b>3,700</b>	+542
売上高	3,532	<b>3,700</b>	+168
営業利益	376	<b>320</b>	△56
経常利益	449	<b>370</b>	△79
親会社株主に帰属する 当期純利益	385	<b>300</b>	△85
フリーCF	310	<b>60</b>	△250
有利子負債	927	<b>950</b>	+23

※ 前提為替レート US\$ = 150円

※ USドル1円の為替変動が営業利益に与える影響はほぼありません

# 2026年度 セグメント別業績通期見通し

- ※ ・受注高及び売上高の伸びは、船用推進システム部門が牽引  
 ・営業利益は、主要3事業部門で前年度から減少するものの、高水準を維持

(単位：億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	2024年度 実績	2025年度 実績	2026年度 見通し (前年度差額)	2024年度 実績	2025年度 実績	2026年度 見通し (前年度差額)	2024年度 実績	2025年度 実績	2026年度 見通し (前年度差額)
成長事業推進	460	433	<b>450</b> (+17)	400	438	<b>450</b> (+12)	68	88	<b>80</b> (△8)
船用推進システム	2,129	1,311	<b>1,700</b> (+389)	1,355	1,497	<b>1,600</b> (+103)	75	145	<b>120</b> (△25)
物流システム	761	666	<b>650</b> (△16)	628	652	<b>700</b> (+48)	60	139	<b>80</b> (△59)
周辺サービス	866	748	<b>900</b> (+152)	752	943	<b>950</b> (+7)	△16	8	<b>40</b> (+32)
その他	1	1	<b>0</b> (△1)	16	2	<b>0</b> (△2)	45	△4	<b>0</b> (+4)
合計	4,217	3,158	<b>3,700</b> (+542)	3,151	3,532	<b>3,700</b> (+168)	231	376	<b>320</b> (△56)

## MarketingとInnovationで、常に時代をリードするエンジニアリングとサービスを提供

### MARKETING

Digital Marketing Technology

#### Digital Marketing Technology

- 遠隔監視サービス
- ドローン点検システム
- 点検・管理サービス

保守・点検分野の  
品質の向上・  
精度の向上・  
効果の定量把握

### INNOVATION

Green Innovation  
Digital Innovation

#### Green Innovation

- 二元燃料エンジン・周辺機器
- 環境対応型クレーン
- 水素・SAFインフラ向け圧縮機
- CO<sub>2</sub>回収技術

GHG  
排出量削減

#### Digital Innovation

- 船体汚損管理サービス
- 遠隔・自動化クレーン
- ターミナルマネジメントシステム
- 港湾デジタルソリューション

生産性の  
向上

### TOPICS 取り組み事例

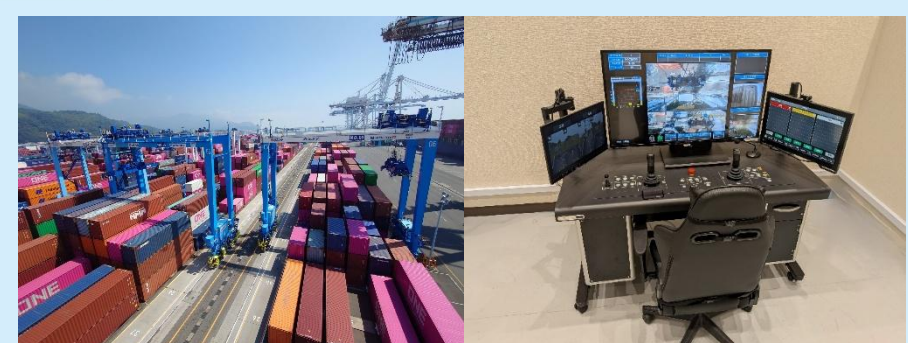
#### Digital Marketing 点検サービスの提供



#### Green Innovation アンモニア焚き船用エンジンの開発

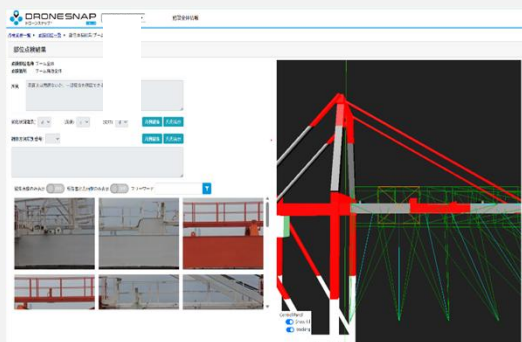


#### Digital Innovation 遠隔・自動化クレーンの開発



グリーン・デジタル技術の活用により、お客様の課題解決に寄与できる製品開発を進める

## ドローン撮影画像のクラウド管理アプリケーション



3Dモデルと連携した画像の表示

### 過去画像との比較



AIによるサビ判定 (※オプション)

## 主な機能や特徴

- ✓ 撮影した画像をクラウド上で、簡単に一括管理
- ✓ 時系列で撮影画像の表示が可能
- ✓ AIによる点検解析ソリューション

## <港湾クレーン以外の活用事例>

### プラント設備の自動巡回点検

#### 石油化学系の大規模プラント



### ドローンスナップによる飛行ルート作成

- ①点検対象設備の3Dモデルを作成
- ②アプリ上で、飛行ルート・撮影ポイント設定
- ③自動飛行による自動で画像取得

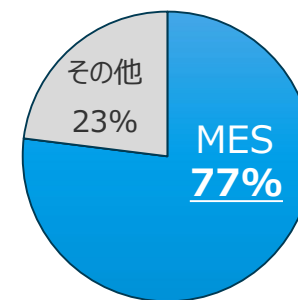
ドローンスナップソリューションで、「点検・巡視」業務のさらなる効率化

## ※ 環境負荷の低い燃料に対応した二元燃料エンジンの累計受注基数は124基

二元燃料エンジンの対応状況  
 国際海運での温室効果ガス（GHG）  
 排出量削減が求められるなか、  
 国内トップメーカーとして、  
 2015年よりメタノール・LNGに対応した  
 二元燃料エンジンを先行して市場投入

	初号機 完成年	累計受注 基数
LNG	2015	69
メタノール	2015	45
エタン	2016	3
LPG	2020	7

二元燃料エンジン生産基数  
 (2025年 国内シェア)



Source : Clarksonsデータ

### 次世代燃料への対応状況

#### <アンモニア>

- ・大型低速2サイクルエンジン商用機として  
 世界初のアンモニア燃料試験運転に着手（2025年2月）
- ・液化アンモニアを燃料として使用可能なLPG/アンモニア運搬船の  
 基本設計承認を取得（2025年8月）

#### <水素>

- ・シリンダ直径50cmの船用2サイクルテストエンジンでの  
 水素燃料運転に世界で初めて成功（2024年3月）



大型船用エンジンのトップメーカーとして、多様な新燃料に対応し、  
 国際海運での温室効果ガス（GHG）排出量削減に寄与

## ※東京港中央防波堤コンテナ埠頭 Y3バス向けヤード用コンテナクレーン17基受注

### 「環境対応」

- ・走行路に沿って設置されたバスバーを介して供給される電源を動力とした環境対応型クレーン
- ・従来のディーゼルエンジン発電機を搭載したクレーンと異なり荷役作業時のCO2排出がゼロ

### 「遠隔操作」

- ・クレーン上の運転席でなく管理棟に設置された遠隔操作卓から操作することができ、運転手の作業環境の改善に配慮

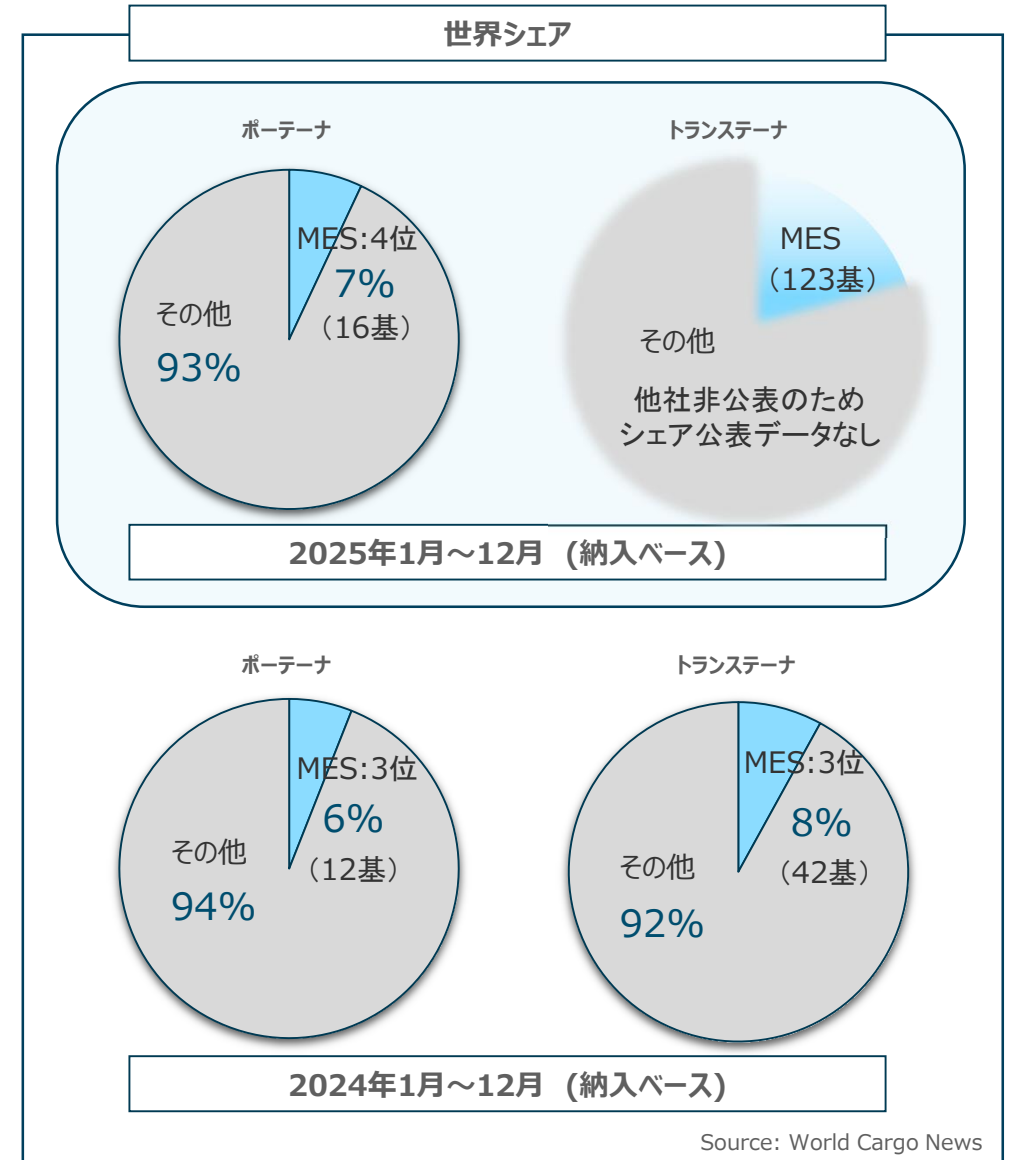
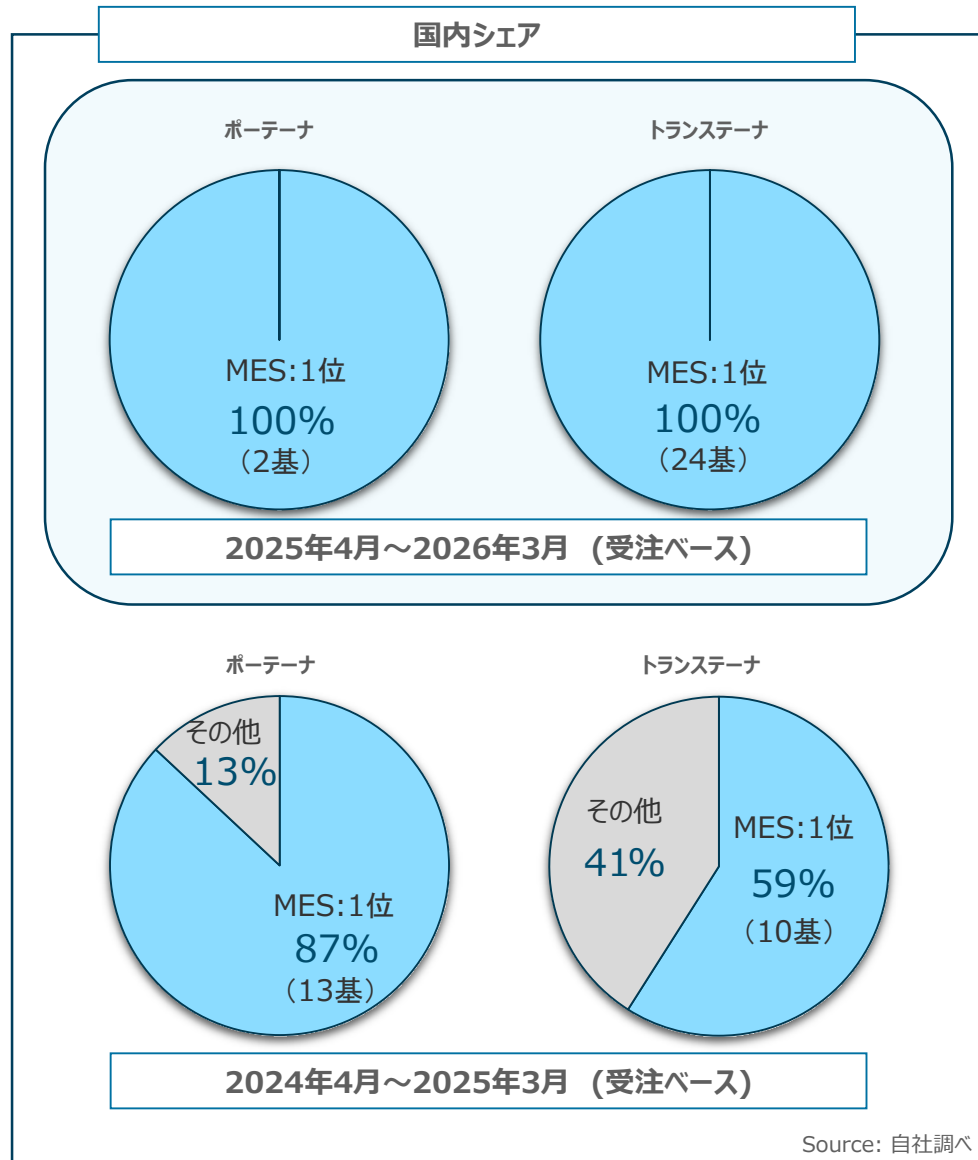


環境対応・遠隔操作対応製品の導入によって、  
東京港全体の荷役処理能力の向上、脱炭素化及びDXの推進に寄与

※ 好調な事業環境に対応するべく、設備投資を進める

	2024年度 実績	2025年度 実績	2026年度 見通し
設備投資額 (億円)	96	<b>91</b>	136
研究開発費 (億円)	15	<b>17</b>	18
連結従業員数 (人)	5,966	<b>5,998</b>	-

## ※ 25年度は国内受注を独占、世界でも納入基数を増やす

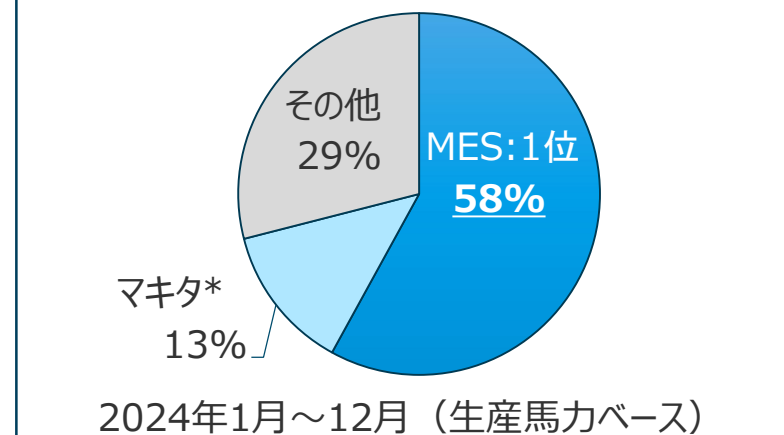
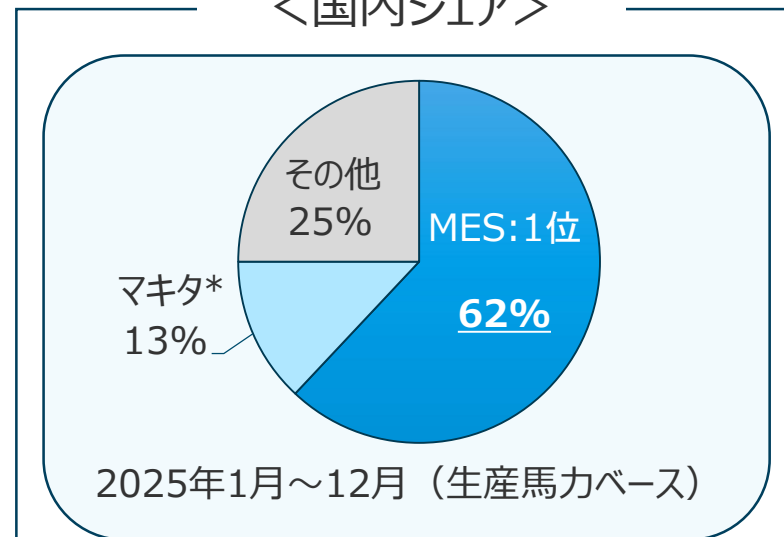


※ 生産設備の増強を計画的に推進するなか、国内シェア 1 位を維持

＜受注・売上・受注残・生産実績の推移＞

	2024年度		2025年度		2026年度見通し	
	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)
受注	175	477	<b>106</b>	<b>214</b>	—	—
売上	141	294	<b>132</b>	<b>288</b>	—	—
受注残	154	415	<b>128</b>	<b>343</b>	—	—
生産実績	131	276	<b>142</b>	<b>303</b>	125	270

＜国内シェア＞

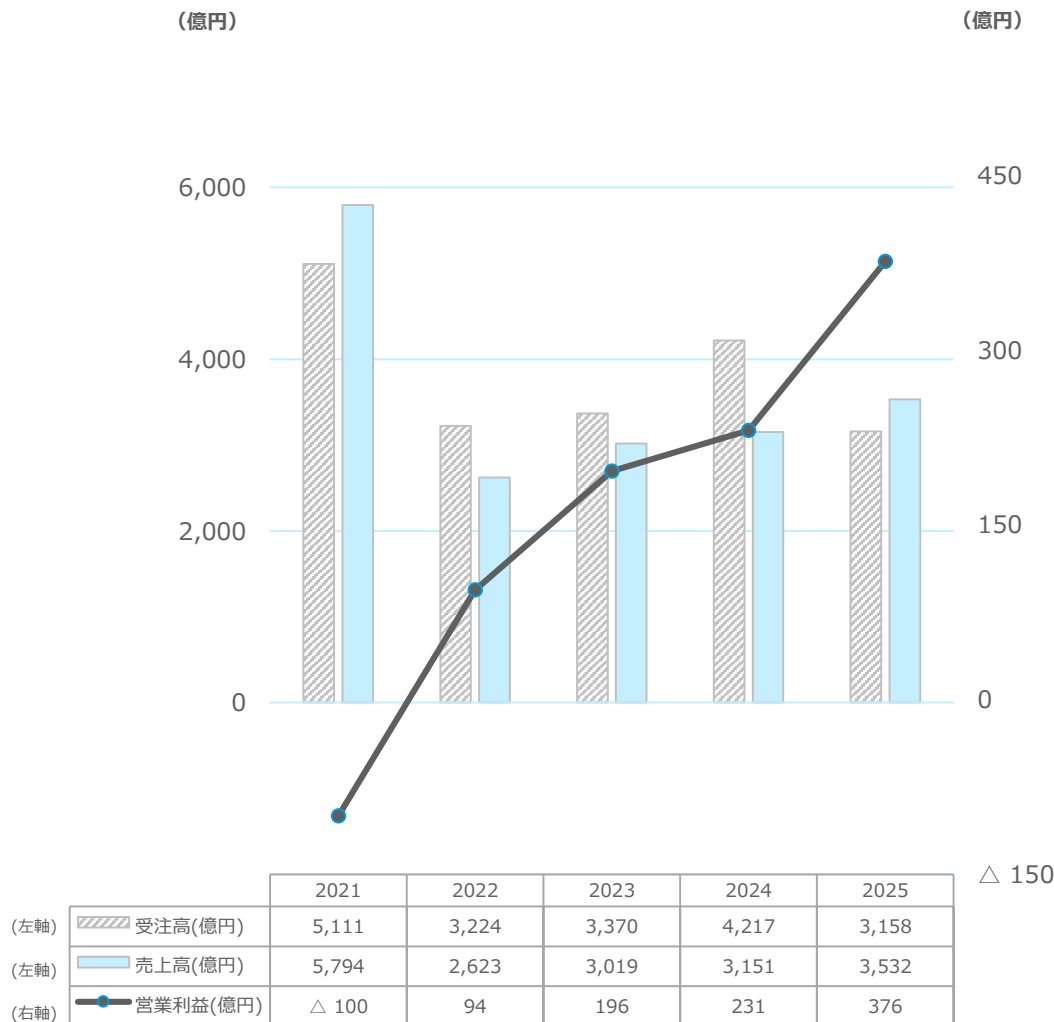


\*マキタは当社サブライセンシー

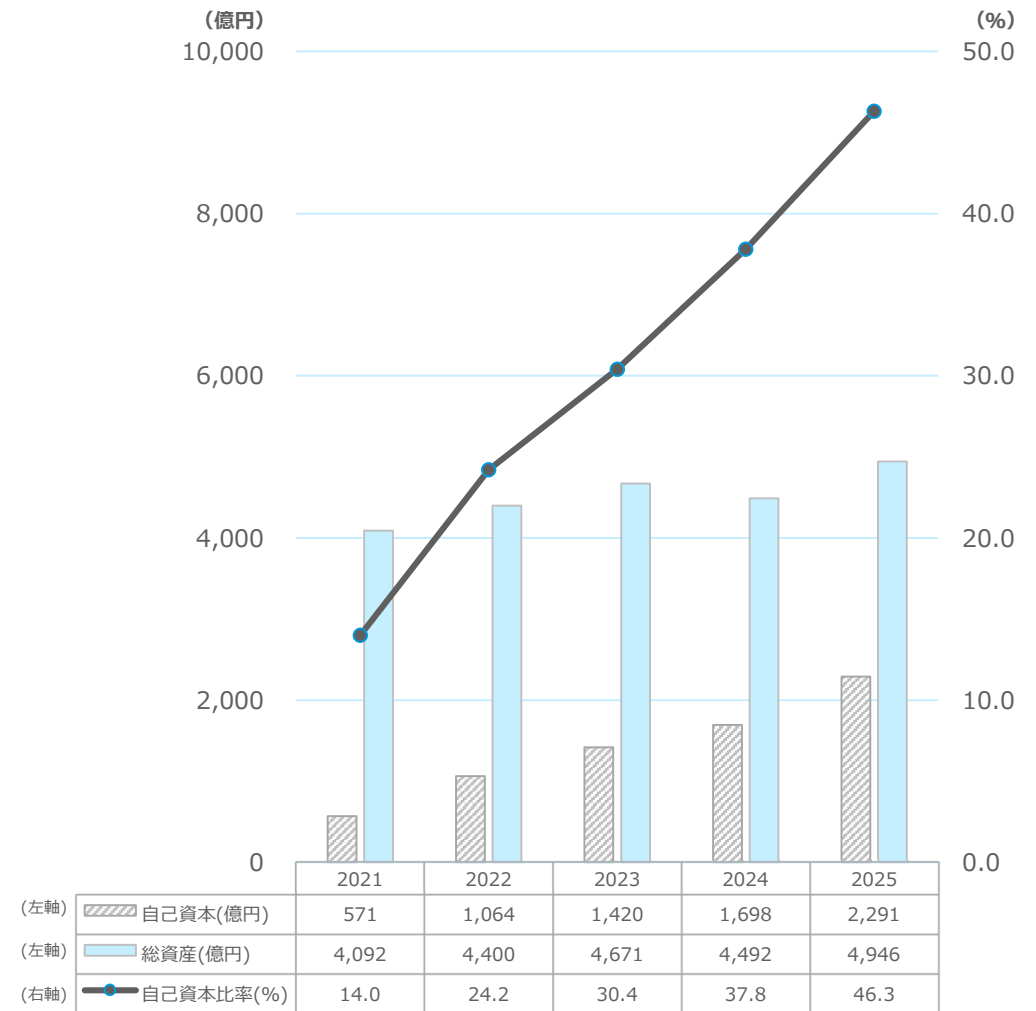
Source: KPデータ（低速2ストロークエンジン）

## ※ 事業再生計画の完遂により、売上・営業利益が着実に伸張

＜受注高・売上高・営業利益の推移＞

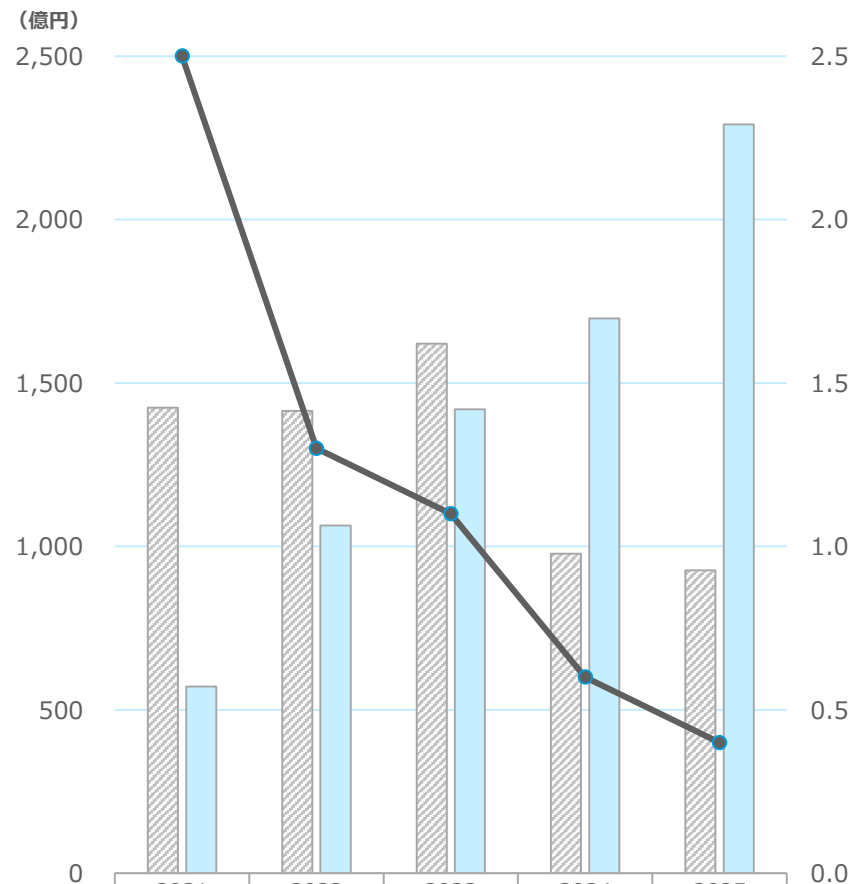


＜自己資本・総資産・自己資本比率の推移＞



## ※ 営業キャッシュ・フローについても、継続的にプラスへと転換

### <有利子負債・自己資本・DEレシオの推移>



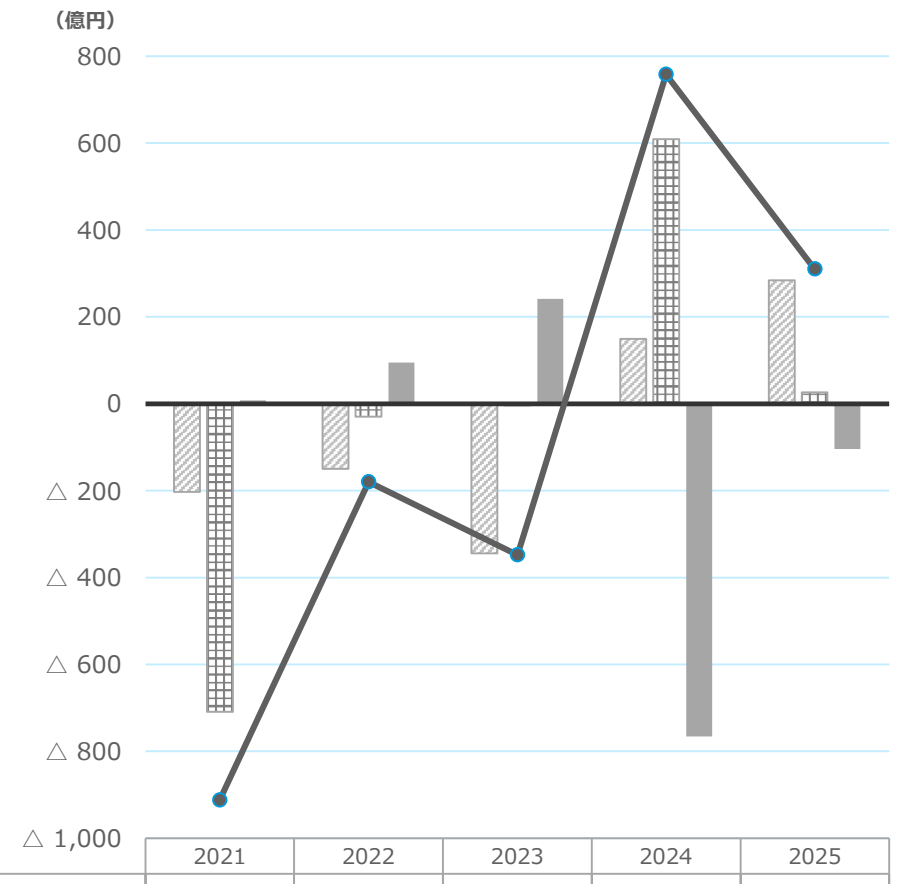
(左軸)

(左軸)

(右軸)

有利子負債(億円)	1,424	1,415	1,620	978	927
自己資本(億円)	571	1,064	1,420	1,698	2,291
DEレシオ(倍)	2.5	1.3	1.1	0.6	0.4

### <キャッシュフローの推移>



営業CF(億円)	△ 203	△ 150	△ 344	149	284
投資CF(億円)	△ 709	△ 30	△ 4	609	26
財務CF(億円)	8	95	241	△ 766	△ 104
フリーCF(億円)	△ 912	△ 180	△ 348	758	310



# MITSUI E&S

Engineering & Services for Evolution & Sustainability

本資料のうち、当社の業績見通し、目標、計画、戦略等には将来に関する記述が含まれております。これらは現時点で把握可能な情報に基づき当社が合理的に判断した見通しであり、既知、未知のリスクや不確実性を含んでおります。従いまして、将来における当社の実際の業績または展開が大きく異なる可能性があります。